

4. 望ましい環境像と環境づくりの目標

4-1. 望ましい環境像	36
4-2. 環境づくりの目標	38

4. 望ましい環境像と環境づくりの目標

4-1. 望ましい環境像

千歳市のよりよい環境づくりを進めるため、市民・事業者・市（行政）は、それぞれの立場と役割を認識するとともに、連携して環境問題を解決し、豊かな自然と人が共生する、健康で安心して暮らせる社会を構築し、次世代に継承する必要があります。

千歳市の望ましい環境像は、市の環境政策や市民・事業者の環境への取組の方向性を定めるための、道しるべとなるものです。

平成13年(2001年)3月に策定した千歳市環境基本計画では、望ましい環境像を、**“限りなく伝えよう いい空 いい水 いい緑 そして共生をめざして”**と定めています。

しかし、その環境像は10年経って実現されたかということ、まだ道半ば、あるいはまだ歩み始めたところであると考えられます。取組の芽はいろいろなところに見られますが、市民アンケート調査結果からみられるように、支笏湖や千歳川などの身近な環境に関心が示されていないなど、取組の気運が市民全体に十分行き渡っていないことも課題として残されています。

また、この環境像は、澄んだ空と空港のまち、豊かな自然を擁する千歳市の特性を端的に表現しており、今後も千歳市の環境の在り方を示す普遍性をもった言葉です。

このことから、千歳市環境基本計画（第2次計画）の望ましい環境像は、これまでの環境基本計画の望ましい環境像を引き継ぐこととします。ただし、この望ましい環境像や目標を実現に近づけるため、市民一人ひとりが環境像へ向かうための行動の指針・方向性を「副題」として付記することとします。

副題には、千歳市の環境状況を認識・理解し、環境保全の行動を実践するための想いを盛り込んでいます。

**限りなく伝えよう いい空 いい水 いい緑
そして共生をめざして**

～ 環境を一人ひとりが見て・感じて・考え、ともに行動するまち ちとせ ～

《 限りなく伝えよう 》

豊かな自然と、そこに生息する多様な動植物、農業地帯の田園風景、整然とした工業団地、縄文時代に始まる歴史と遺跡や文化、限りある資源などを、良好な状態で次世代に伝え続けていくことを意味します。

また、環境を保全する社会システムや環境にやさしい心を伝え、豊かな自然環境が限りなく続くことを願います。

《 いい空 》

きれいな空気、静けさ、さわやかな風を意味する一方で、“北のそら”の拠点である空港のまちを連想させます。

《 いい水 》

支笏湖、千歳川など、きれいで豊かな水と、そこに生息する多様性豊かな動植物を意味します。

また、おいしい水（名水）も連想させます。

《 いい緑 》

森林や公園などの身近な緑と、そこに生息する動植物、広大な風景などを意味します。

《 そして共生*をめざして 》

豊かな自然環境を後世に伝えていくことが大切であり、人と自然がふれあいながら環境への負荷をできるだけ低減することにより、安心して暮らせるまちをつくり、すべての動植物と共生できる地球環境にやさしい社会を目指します。

また、北国の四季を肌で感じながら、自然を慈しむやさしい心を育みます。

《 環境を一人ひとりが見て・感じて・考え、ともに行動するまち ちとせ 》

環境配慮の取組を市民全体に広めるには、「できるところから実行する」、「身近な環境へ常に目を配る」ことが重要なことから、日常の生活で常に環境を意識しながら、まずは「見る・感じる」つぎにどうすればよいかを「考える」、そして自ら行動し、多くの人々と活動の輪を広げていきます。

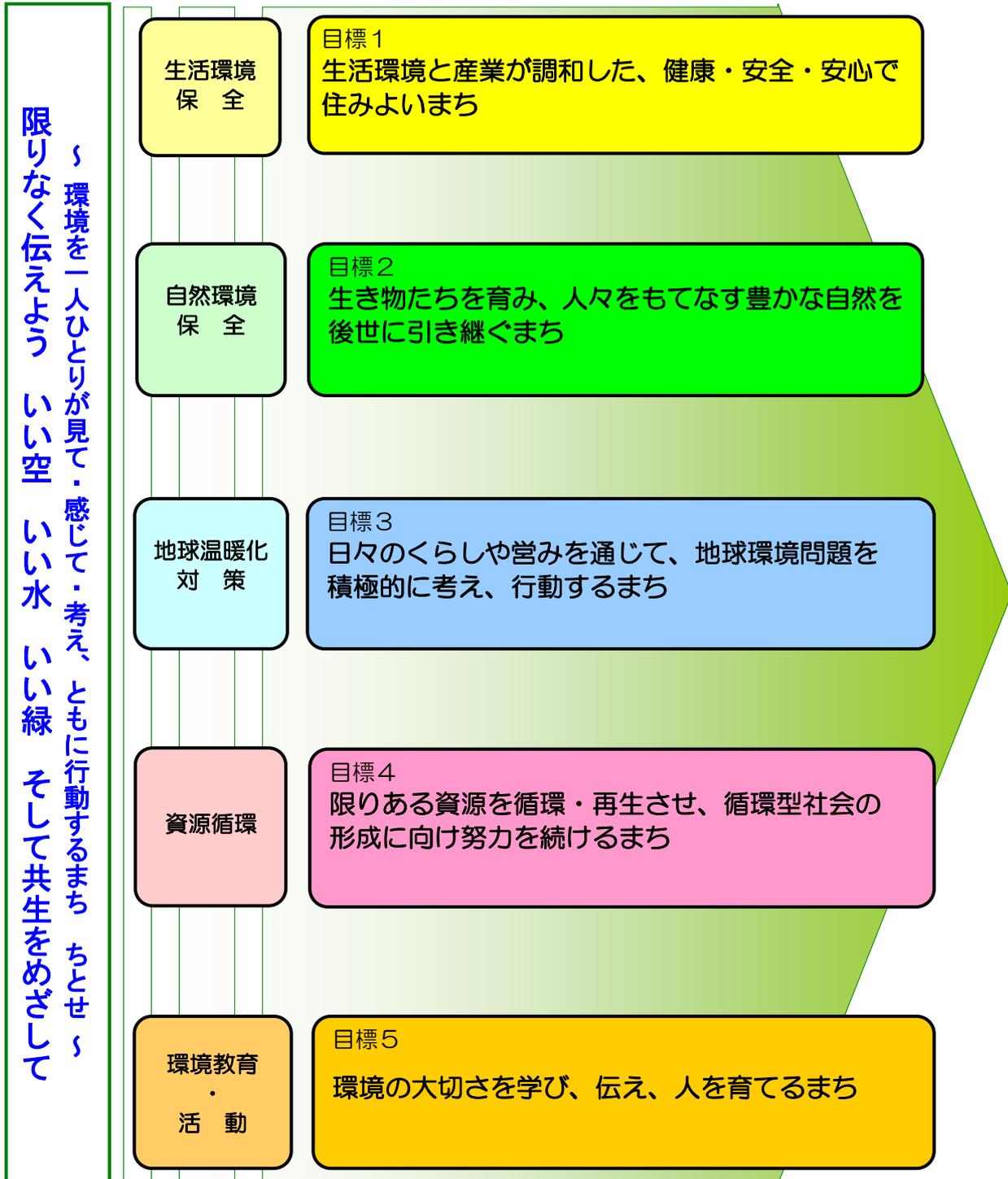
★用★語★解★説★

(環境との) 共生：自然と人間がともに結びつきをもち関わりあうことで、健全な生態系を維持、回復し、社会経済活動を行う上でも環境への影響（環境負荷）に配慮すること。
持続発展が可能な社会経済活動を行うためには、自然環境との調和も考えなければなりません。

4-2. 環境づくりの目標

環境像の実現に向けた取組を展開するため、5つの取組分野を設定し、分野ごとの環境づくりの目標を設定します。

望ましい環境像	取組の分野	分野ごとの目標
---------	-------	---------



望ましい環境像のもとに掲げた5つの目標は、生活環境の保全、自然環境の保全、地球温暖化対策・資源循環、環境教育・活動などにおいて、市民アンケートやエコロジー市民会議などから寄せられた課題の解決を図るための千歳市の環境目標となります。

千歳市において解決すべき課題は、次のとおりです。

【生活環境保全】

千歳市は、河川・湖沼など豊かな自然、空港、工業団地、商業地、防衛施設など多様な都市基盤が隣り合って存在するまちです。このことは、千歳市での生活は、快適性や潤いを身近に感じることができる反面、航空機や自動車の騒音・振動、その他事業所等から排出される有害物質等により、快適な生活がおびやかされかねない心配な状況でもあります。

千歳市の都市活動を担うすべての人たちが協力し、環境負荷を低減し、快適な生活環境を守ることが重要です。

【自然環境保全】

千歳市の森林をはじめとする豊かな自然は、様々な法制度を通じて守られていますが、支笏湖・千歳川などシンボリックな自然の状況がわからないとする市民も多く、市民みんなの財産として共有する意識が必要となっています。

自然を直接保護する取組も重要ですが、市民一人ひとりが自然を見て・感じ、千歳市の自然の特性を把握する機会を増やすことも重要です。

【地球温暖化対策・資源循環】

千歳市では、ISO14001*やチャレンジ25キャンペーンなど、温暖化対策を積極的に進めています。市民等の取組は徐々に広がりをみせていますが、今後、更に取組を市民に広げていく必要があります。また、国が打ち出した温室効果ガス25%削減の目標を受け、更なる温暖化防止対策が求められてきますが、将来的な実現を見据えた上で、まずは「できるところ」から徐々に広めていくことが重要です。

一方、資源循環については、市民・事業者の協力で、ごみの搬入量は減少してきていますが、更に減量化を進めるには、製造段階からごみの発生抑制につながる製品の開発・製造・使用に配慮していくことが重要です。

【環境教育・活動】

千歳市では、子どもから高齢者まで環境について学ぶことができる場や温暖化対策に参加できる機会があります。しかし、すべての市民が利用・参加するには至っていません。

地域の資源や文化財を含め、環境を守り伝えていく意識を多くの市民がもつためには、一人ひとりが身の回りの環境に関心をもち見て感じることで、そして環境の見方や守り方を伝えることのできるリーダーを育てることが重要です。

